

よしだ

文化会館だより

No. 90

2006. 4. 1

第19回

笠岡市人権・部落解放文化祭を開催

差別解消への願いがこめられた3日間をふりかえる

3月3日から5日までの3日間、「解放へのいとなみと人権意識の高まりを求めて」をテーマに、吉田文化会館と吉田小学校体育館で第19回笠岡市人権・部落解放文化祭が開催されました。

この文化祭は、文化会館及び集会所を拠点にした教育・文化活動を奨励するとともに、同和問題を中心にした市民啓発と人権文化の高揚に役立てることを目的に開催しているものです。



▲展示された作品を熱心に見学する来場者。



▲岡山大学児童文化部の学生たちと一しょに一生懸命に工作に取り組む子どもたち。

展示のコーナーでは、同和問題をはじめとする人権問題の解決への願いをこめた保育所、幼稚園、小・中学校、企業などの人権に関する学習成果の発表、各種講座の作品、人権啓発ポスター・パネル、福祉施設からの作品など多数が展示されました。

また、吉田小学校体育館ではいろいろな催しが行われました。2日間にわたって行われたスタンプラリーでは、楽しみながら人権について学ぶことができ、参加者から

▲力強い言葉で講演する川口泰司さん。同和問題の現状などをユーモアを交えて語り、聴く人の心を引きつけた。



は大きな反響が寄せられました。4日には、岡山大学児童文化部の学生たちによる「わくわくげんきつず・かさおか」が開催され、人形劇や工作、ゲームなどを通じてふれあいと交流を深めました。

5日は「人権を考える集い」が開催されました。教職員人権教育指導者講座受講者によるステージ発表では、人権問題に関する寸劇や手話を交えた合唱が披露されました。

その後、山口県人権啓発センター事務局長の川口泰司さんを講師に迎え、「差別っていったいなんやねん」若者からのメッセージ」をテーマに講演が行われました。

川口さんは、部落差別についての情報が不足している現状を指摘し、啓発や教育活動をさらに充実させていく必要があると訴えました。

よしだ文化会館だより ①